The まち人 Machibito
地域に生きる
file 022

多くの人の“手”に支えられ紡がれていくもの

NPO法人 LaMano

LaMano冬の染色展 | 12月7日(金)～10日(月) 10:00～16:00　NPO法人LaMano　金井5-14-18　042-736-1455

町田市金井の閑静な住宅街の奥、ひときわ深い緑に囲まれた古民家がクラフト工房LaMano(以下ラ・まの)だ。そこでは知的や身体に障がいを持った27名の利用者が、生き生きと働いている。

ラ・まのは1987年に三輪でスタートした障がい児の造形教室がルーツ。金井に移転したのは1993年、NPO法人になったのは2008年のこと。織り物と染め物、刺繍を行う工房と、2006年にできたアート活動のアトリエ、そして畑もある。作業時間は1日約6時間、それぞれが得意な仕事を担い、スタッフが作業工程のサポートなどを行い製品が完成する。

工房内に置かれた年代物の桐箪笥の引き出しには、彼らが制作した色とりどりのマフラーや手ぬぐい、布やポーチなどが並ぶ。丁寧な手仕事で作られた作品は、どれも味わい深い一点もので、総アイテム数は50種に及ぶ。

2009年から施設長を務める高野賢二さんは、染色の指導員として2000年にラ・まのに入社した。

「彼らとはものづくりを共に行う仲間として接しています。障がいの部分に対しての支援は必要ですが、彼らが自分の居場所として、こうした製品づくりに携わっていること、それは本人たちにも家族にとっても、支える私たちにとっても誇らしいことです。この工房は、福祉的な意味合いでの役割と、クラフトやアート作品を生み出す工房としての存在意義を併せ持っています。これからも利用者の皆さんと地域とも連携しながら、質の高いものづくりを続けていきたいと思っています。」

アート作品は美術展で表彰されることも多く、2017年にはフランスで開催された障がい者の文化芸術国際交流事業で工房から3人の作品が選ばれた。郵便局で販売される年賀状のモチーフに採用されたり、TOKYO2020公認文化オリンピアードとして、東京都やアーツカウンシル東京が実施するプロジェクトにも参加している。

ラ・まのが健全に運営できている理由の一つは、サポートする実に大勢のボランティアがいるおかげだ。その数は年間通して延べ1千名。それぞれが自身のできる範囲でラ・まのを支えている。

「近所の方やメンバーの親御さんをはじめ、多くのボランティアの方が参加してくれています。内容はアイロンや縫製などの製品の仕上げ作業や畑、花壇の手入れ、イベントの手伝いなど様々です。参加の回数は、月に1回の方もいますし、中には『ここに来ると癒される』と言って繰り返し来られる方もいます。」

地域との連携にも積極的で、近くの金井中学校とは継続してワークショップを行ったり、文化祭にはブース出展もしている。周辺の住民が、染織教室に参加したり、気軽に買い物に訪れるなど、地域にオープンなところもラ・まのの特徴の一つである。

スペイン語で「手」を意味する『LaMano』。利用者の個性的な手で丁寧に紡ぎ出された作品の背景には、数えきれない善意の手がたくさんあった。

A. 織りの工房には本格的な機織り機が12台。鮮やかな草木染の糸で織ったマフラーはラ・まのの人気商品　B. 作品が年賀状に採用されるなど、アーティストとして全国で企画展も開催される尾崎文彦さんの作品　C. ラ・まのに携わって20年を迎える施設長の高野賢二さん　DE. それぞれの強みを活かした仕事に従事するのがラ・まの流。驚くべき集中力で美しい作品を紡ぐ利用者たち